

World Heritage News Letter

世界遺産ニュースレター 2022年2月《vol.46》

撮影：平井広行

1 富士山の日、静岡県富士山世界遺産センターへ！

<静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課教育普及班 長嶋昌和 主査>

2 「第2回絶景・秀景富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展」紹介

<静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課教育普及班 山崎喜之 主幹>

3 静岡県富士山世界遺産センター開館5周年に向けて

<静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課 川口智弘 課長>

4 <研究員コラム>

近現代以降の富士山各登山道の「合目」標記の再編

<静岡県富士山世界遺産センター 学芸課 大高康正 教授>



富士山の日、静岡県富士山世界遺産センターへ！

<静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課教育普及班 長嶋昌和 主査>

2月23日は富士山の日です。富士山の日は静岡県富士山世界遺産センターを訪れ、富士山に親しむ機会にしませんか？

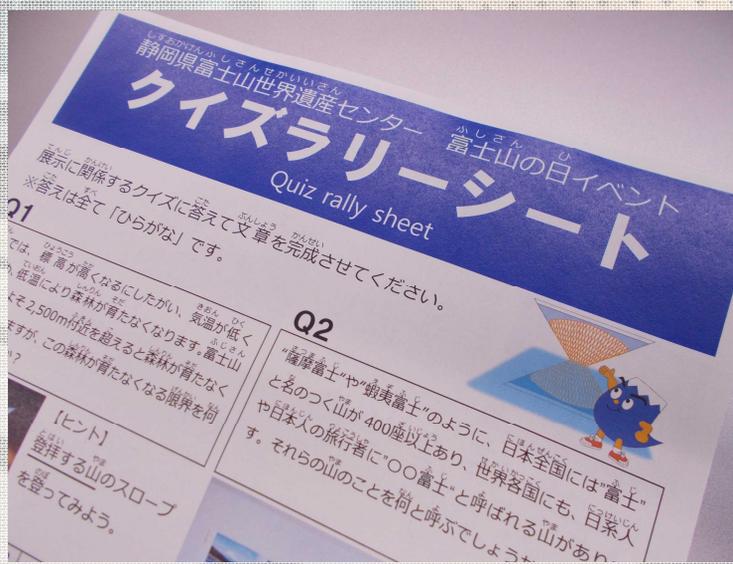
当センターでは、富士山の日当日は入館無料になり、素敵な景品がもらえるクイズラリーを実施します。さらに、富士山の日「絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展」開催になります。

みなさまのご来館をお待ちしています！

富士山の日イベント 「館内クイズラリー」

富士山の日専用クイズシートを使って、館内をまわりながら楽しく富士山について学んでいただけます。見事クイズシートを完成させると、素敵な景品をプレゼントします。さらに、抽選でセンターオリジナルグッズもプレゼントいたします。

- 1 日時 令和4年2月23日（水・祝）10:00～15:00
- 2 受付 静岡県富士山世界遺産センター 1階 アトリウム
- 3 参加者 どなたでも
- 4 その他 新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況によっては、変更・中止となる可能性もあります。あらかじめご了承ください。最新の情報は公式HPでご確認ください。



「絶景・秀景富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展」紹介

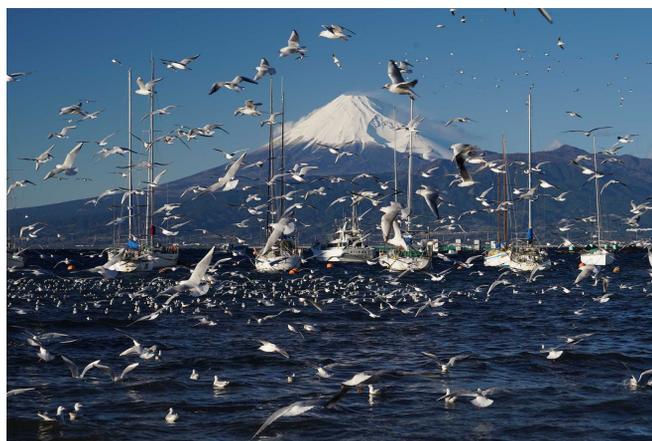
＜静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課教育普及班 山崎喜之 主幹 ＞

静岡県富士山世界遺産センター・公益社団法人静岡県観光協会・NHK静岡放送局主催による「絶景・秀景富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展」が、令和4年2月23日（水・祝）から3月27日（日）まで当センター企画展示室で行われます。

この「絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト」は、前身が平成22年度から令和元年度まで10回に渡り開催されてきた「秀景ふるさと富士写真コンテスト」となります。以前は、全国に400座以上あるとされる「ふるさと富士（見立て富士）」（例：北海道・蝦夷富士（羊蹄山）など）の写真コンテスト入賞作品展でした。

この写真展のさらなる充実を図るため、令和2年度からは「秀景ふるさと富士写真コンテスト」と静岡県観光協会・NHK静岡放送局主催の「NHK富士山大好きプロジェクト」を統合し、従来の“ふるさと富士”の写真（秀景ふるさと富士部門）に加え、静岡県側から撮影された“富士山”の写真（絶景しずおか富士山部門）を募集するコンテストとなりました。

今回は、その第2回目となり、応募総数1,039作品の中から厳正な審査を経た入賞作品100点を展示いたします。



絶景しずおか富士山部門グランプリ
タイトル「飛翔」
久保田勝夫
（撮影地：静岡県沼津市）
※写真は昨年度入賞作品



秀景ふるさと富士部門グランプリ タイトル「晩秋の朝」
木龍 寛
（撮影地：蝦夷富士（羊蹄山・北海道））
※写真は昨年度入賞作品

静岡県富士山世界遺産センター開館5周年に向けて

<静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課 川口智弘 課長>

今年の12月に当センターは、開館5周年を迎えます。

当センターは、平成29年12月23日、富士山の麓、そして構成資産の一つである富士山本宮浅間大社の間近に、富士山に係る包括的な保存管理の拠点として、また、富士山の自然、歴史、文化に加え、周辺観光等の情報提供を行う拠点となるべく整備されました。

コロナ禍までは、日本国内だけでなく海外からも合わせて年間30万人を超えるお客様をお迎えしてまいりました。

令和2年になると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、48日間の臨時閉館を余儀なくされましたが、厳しい状況のなかでも、令和3年2月28日には、開館からの通算で100万人目のお客様を迎えることができ、3年2か月で達成できたことを考えると、皆様の富士山に対する関心の高さがうかがえます。

年が明け、再度、新型コロナウイルス感染症が拡大しており、先を見通せない状況となっておりますが、入館時の検温や消毒をはじめとした感染症対策の徹底をはかりながらウィズコロナ時代に対応し、多くのお客様が安心して過ごせるように万全の運営を心がけてまいります。

また、開館5周年に向けた新しい取組として、富士山ライブカメラの導入、団体予約に加え公開講座等のイベントに関するWeb予約システムの導入、YouTubeなどのSNSによる情報発信チャンネルの拡大など、進化する博物館として富士山の普遍的価値の継承に取り組んでまいります。



富士山の各登山道は「合目(ごうめ)」標記が用いられている。麓から自動車で登ることのできる限界地点を中間の5合目として設定し、開山期に5合目から10合目(頂上)の間を徒歩で登山することを推奨している。

明治39年(1906)に開削された富士宮口登山道の新ルート(カケスバタ道)は、大正時代には登山バスの営業が始まり、カケスバタまで自動車で行けるようになる。昭和に入ると1合目まで、さらに昭和28年(1953)に2合目、昭和35年(1960)に3合目と延伸されていった。登山道が改良されていくとともに、各登山口で登山者の誘致を促進するため、自動車で行けることのできる標高を上げていったのである。しかし、当初は近代に設定された「合目」標記に沿って適宜登山道を改良したので、「合目」標記が変更されることはなかった。現代に入り各登山道で自動車道による登山道を再整備することになり、自動車道による登山道の終点を富士登山における中間地点として、新たな5合目として再設定したのである。

こうした画期として、吉田口では富士スバルラインの開通にともない昭和39年(1964)に標高約2305mの富士スバルライン5合目が開設、須走口ではふじあざみラインの開通にともない昭和34年(1959)に標高約1970mの新5合目が開設、御殿場口では富士公園太郎坊線の開通にともない昭和45年(1970)に標高約1440mの新5合目が開設、表口では富士山スカイラインの開通にともない昭和45年(1970)に標高約2400mの富士山スカイライン5合目が開設されている。

吉田口は富士スバルライン新5合目が旧来からの登山道5合目と標高差の少ない地点に設定されたことによって、「合目」標記に大きな再編は行われていないが、須走口は大正5年(1916)に馬返を1合目、中食場を2合目と再編した後に新5合目が2合目中食場と3合目室小屋の間に開設されたことによって、3合目以降の「合目」標記が再編されることになった。御殿場口は新5合目が旧来の2合目の位置に開設され、各登山道で1番標高の低い約1440mとなった。富士宮口は新5合目が明治39年(1906)に開削された新ルートの3合5勺の位置に開設されたことにより、4合目以降の「合目」標記が大きく再編されることになった。旧来の4合目は新・旧ルートの登山道が合流する地点でもあったが、再編後は6合目となった。

現代における各登山道の自動車道の整備による新5合目の開設は、新たな5合目の再設定となり、これより上の「合目」標記の再編につながった。結果として、新5合目より下の標高に存在していた旧来の登山道における「合目」標記の存在は曖昧なものとなり、かつ5合目まで自動車道を利用する登山方式が定着することで、新5合目より下の「合目」標記を無用の長物とさせてしまったのである。各登山道による自動車道の整備は、その終点を5合目として再設定することで、登山者に富士登山の中間地点までの移動を省略できるといった心理的な作用を与えたひとつの印象操作でもあった。

【参考文献】 ・大高康正「富士山の「合目」標記に関する一考察」

(静岡県富士山世界遺産センター編『富士山学』第1号、雄山閣、2021年3月)



富士宮口新5合目



須走口新5合目